宜野座村と米軍基地

宜野座村　令和3年3月

宜野座村と米軍基地

宜野座村

令和3年3月

発刊のあいさつ

現在、宜野座村には、キャンプ・ハンセン、キャンプ・シュワブといった米国海兵隊の戦闘訓練場が所在しており村面積の50.7％を占め、また海域には、キャンプ・ハンセン、キャンプ・シュワブ提供水域も存在しています。

米軍基地から派生する問題については、米軍航空機による騒音問題、民間地域上空の飛行及び低空飛行、そして夜間飛行や吊り下げ訓練等があり、その他にも、米軍車両事故や米軍関係者による事件・事故等、問題は山積しております。特に平成25（2013）年8月、キャンプ・ハンセン訓練場内の宜野座大川ダム付近に米空軍嘉手納基地所属のHH60救難ヘリコプターが墜落したことは、村民の皆様に大きな衝撃と不安を与え、日頃の飲み水を供給している宜野座大川ダムからの約1年間の取水停止等、村民生活にも多大な影響を与えました。

本村としては、このような米軍基地から派生する問題について、実態を把握し、村民の声や被害の実情を根気強く日米関係機関に要請し、問題解決に向けて取り組んでまいります。

平成7（1995）年に冊子「宜野座村の米軍基地」終戦50周年記念誌を発刊してから約25年が経っていることから、続編として、これまでの25年間で本村が米軍基地とどのように関わってきたのか、またその実情を村民の皆様に広く周知し後世に伝える資料となるよう、今回「宜野座村と米軍基地」を発刊致します。

令和３年３月

宜野座村長　當眞　淳

目　次

発刊のあいさつ　宜野座村長　當眞淳 …… 2

第1章　宜野座村紹介

宜野座村のあゆみ …… 6
宜野座村のいま …… 10
跡地利用計画　軍用地返還に関する村民アンケート …… 12
基地関連交付金を活用した主な事業 …… 13

第2章　宜野座村の米軍基地

宜野座村に関連する米軍基地の概要 …… 16
宜野座村米軍基地内のヘリパッドと各施設の位置 …… 18
宜野座村内の米軍基地ではどのような訓練が行われているか …… 20
FAC6011　キャンプ・ハンセン …… 22
FAC6009　キャンプ・シュワブ …… 24
在日米軍組織図 …… 26
在沖米軍主要組織図 …… 27
在日米軍人等（軍人・軍属・家族別）の施設・区域内外における居住者数について …… 28

第3章　基地から派生する問題

宜野座村内で起きた米軍関連の主な被害や事件事故（平成7～令和2年） …… 30
新聞報道で見る、宜野座村の基地問題 …… 34
普天間飛行場代替施設建設問題の経緯 …… 40
米軍車両事故 …… 42
キャンプ・ハンセンヘリ墜落事故 …… 44
基地外で米軍人・軍属が起こす事件関連 …… 48
米軍機の飛行訓練と騒音問題 …… 50
米軍基地からの赤土流出について …… 55

第4章　基地問題への対応

米軍基地から派生する諸問題への村の対応 …… 58
主な抗議・要請活動 …… 59
ヘリ訓練中止　福山区民総決起大会 …… 63
普天間飛行場の辺野古沿岸移設に反対する宜野座村民総決起大会 …… 64
みんなで考えようヘリポート基地松田区民集会／辺野古地先海域の米軍専用飛行場建設に反対する漁民大会決議 …… 66
オスプレイ配備をめぐる村の動き …… 67
オスプレイ撤去区民総決起大会（城原区） …… 69
ヘリ墜落に抗議する村民大会 …… 70

第5章　財政と基地

1軍用地料／宜野座村軍用地料分収経緯 …… 72
2基地交付金等（総務省所管） …… 76
3再編交付金事業 …… 77
4基地周辺整備事業 …… 80
5特別行動委員会関係施設周辺整備助成事業（SACO交付金） …… 90
6沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業（沖縄懇談会事業） …… 90

第6章　資料編

日米安全保障条約 …… 92
日米地位協定 …… 93
日米地位協定の環境補足協定 …… 101
日米地位協定の軍属に関する補足協定 …… 102
駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法 …… 103
防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律 …… 108
駐留軍施設・区域の返還状況 …… 113
米軍基地・施設一覧表 …… 114
在日米軍提供施設・区域配置図 …… 116
沖縄周辺の米軍訓練水域・空域図 …… 117
県内市町村別米軍基地面積／米軍基地の地区別面積 …… 118
市町村面積に占める米軍基地の割合と人口密度／
市町村面積に占める基地面積／基地面積を除いた人口密度と除かない場合の人口密度 …… 119

第１章

宜野座村紹介

宜野座村のあゆみ

本村は、古知屋岳・ガラマン岳・漢那岳が北風を防ぎ、海岸のイノー（ラグーン）が漁場となって、縄文時代から水場を拠り所に人々が生活していた。村内にはグスク時代の遺跡も数カ所あり、継続して人が住んでいたと考えられるが、具体的なことはよくわかっていない。

1649年の『絵図郷村帳』には古知屋（現：松田）・宜野座・惣慶・漢那の4つの村があり、金武間切に属して「上四ケ」とも称された。1624年に尚豊王の実弟の向朝貞が薩摩から茶種を持ち帰り、これを漢那村に植えたという記録がある。この時代から漢那は琉球の茶園発祥の地とされる。

明治の頃には、首里・那覇・泊の士族が古知屋や宜野座に寄留し、大久保、兼久、前原などの屋取集落（士族が移り住んだ集落）が形成された。彼らは組踊「本部大主」や「宜野座の京太郎（県無形民俗文化財）」などの芸能を伝え、五穀豊穣を神に祈願する豊年（八月あしび）に取り入れられて現在まで継承されている。

昭和20（1945）年の沖縄戦時、本村は本島中南部と異なり戦場にはならなかった。戦争の数年前から食糧増産を目的とした開拓集落が高松・福山・城原につくられた。米軍占領後には民間人の収容地域となり、ピーク時には約10万3千人が本村で生活。そして宜野座村が誕生する。

田端景俊4代目村長と村役所全職員（昭和27 / 1952年頃）

宜野座村誕生

昭和21（1946）年4月1日、当時の金武村から古知屋、宜野座、惣慶、漢那の四集落が分離し、宜野座村が誕生。同年8月1日、のちの名誉村民・新里善助氏が第2代村長に就任した。

戦後復興事業の開始

昭和23（1948）年より、村役所の建築、点灯事業、簡易水道事業などに着手。また、村内には宜野座総合病院、宜野座裁判所、宜野座警察署、宜野座地方刑務所などの公共機関が存続しており、他町村に先駆け、戦後復興事業が行なわれた。

分村後の新興宜野座村歴代村長左から森山徳吉初代村長、新里善助2代村長、新里銀三3代村長と屋比久孟松収入役（昭和23 / 1948年頃）

当時（昭和28 / 1953年頃）の村役場

戦後処理業務の基礎を確立

昭和25（1950）年9月3日に田端景俊氏が第4代村長に就任し、2年2ヶ月の在任期間中に、農業ダム建設を中核とした農業振興計画の立案、宜野座村農業改良委員会の設置、教育委員会制度の施行、土地所有者権証明の交付、戸籍事務の整備など戦後処理業務の基礎を確立した。

琉球政府の設立

昭和27（1952）年2月、民政府布告13号「琉球政府の設立」が交付され、4月1日に琉球政府が設立された。この年の11月21日、浦崎康裕氏が5代村長に就任、以来、昭和39（1964）年までの12年間の任期中に本村の二大政策である「農業立村」、「教育立村」が確立された。この二大方針は不動の政策方針として、歴代村長に引き継がれている。

昭和28年元旦に撮影した村職員一同

企業誘致を積極的に推進

昭和39（1964）年12月に與儀實清氏が8代村長に当選、昭和47（1972）年（本土復帰前後）まで2期8年間村政を担当した。與儀村長は若年労働者の村内での雇用の拡大と基幹作物（さとうきび、パイン）の振興を目的に、タピオカ工場、パイン工場、製紙工場などの企業誘致に積極的に取り組んだものの、なかなか進まなかった。

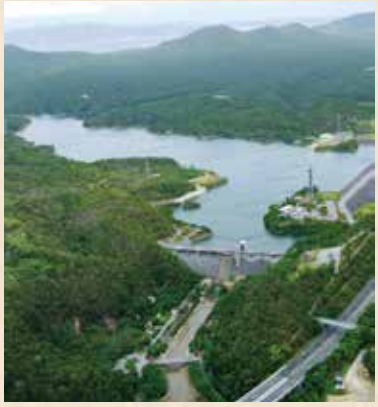
沖縄県の本土復帰

昭和47（1972）年5月15日、琉球政府の施政権がアメリカ合衆国政府から日本政府へ返還され、沖縄県が発足。本土復帰後、県の各市町村の施政は本土化や本土水準を目標に推進された。12月3日に末石森吉氏が10代村長に就任すると、農林水産省補助による土地改良事業を導入し圃場整備を行なった。また、軍用地からの赤土流出防止対策としては防衛庁の補助事業（砂防対策事業）を活用し、軍用地内に砂防ダム8基を建設した。

「水と緑と太陽の里」構想

昭和55（1980）年12月30日、仲程實湧氏が12代村長に就任。仲程村長は「水と緑と太陽の里」を村づくり構想のキャッチフレーズに、「自然と産業との調和ある村づくり」を村政の主要施策として掲げた。2期8年の就任中、宜野座村緑化振興会の設立、水源地開発として、昭和60（1985）年に潟原ダム、平成元（1989）年に県営鍋川ダム、平成4（1992）年に国営漢那ダム（多目的ダム）、大川ダムを完成させた。

漢那ダムについては、沖縄開発庁の水源地開発事業の一環として、慢性的な水不足に悩む中南部地区への上水の供給と本村の上水及び農水の供給のため、建設している。


上空から見た漢那ダム

村のソフト面の開発

昭和63（1988）年に14代村長に就任した伊藝宏氏は村保健健康相談センターの開設、村地域福祉センターの完成を手がけた。また、生涯学習の拠点としての村立博物館、漢那小学校50周年に伴う学校移転など、村のソフト面の充実を多数実現。

観光産業、情報化社会への参入

平成11(1999)年12月30日に浦崎康克氏が16代村長に就任。2期8年の任期中、「サーバーファーム整備事業」などを導入、情報や観光産業への積極的な参画に取り組み、平成12(2000)年には、てんぷす宜野座村を宣言しました。以降、全国へそのまち協議会への参加等、県内外へ宜野座村を発信しています。また、平成15(2003)年には阪神タイガース春季キャンプを誘致。その取り組みは現在も続いています。

新たな時代に対応する施策

平成24(2012)年12月30日、18代村長に東肇氏が就任。これまでの政策をふまえながら、新しい時代の流れや大きな時代のうねりに対応するべく村政の取り組みやあり方、「健康づくり」をキーワードとした村づくりに取り組んだ。

施設面では「宜野座ドーム」が平成18(2006)年、宜野座村第2サーバーファームが平成21(2009)年に完成。また、「健康宣言の村」、「有機の里 宜野座村」宣言、宜野座村営学習塾「21世紀みらい」の開講なども行った。

村民参加の村づくり

平成24(2012)年第20代村長に當眞淳氏が就任し、「子ども達の瞳が輝き、村民の笑顔があふれる村づくり」を基本理念に村民参加型の村づくりを推進し、各種産業振興や教育・福祉支援体制の強化、交流事業の推進など多岐にわたり新たな取り組みを進めています。

平成25(2013)年には、マンゴー拠点産地認定のほか、松田地区史跡公園及び体験交流センター、かんなパークゴルフ場の完成。平成26(2014)年には宜野座村特産品加工直売センター(未来ぎのざ)が東海岸初の道の駅として登録。また、タラソの管理運営を民間委託。平成27(2015)年には村営学習塾運営の効率化を図るために強化運営を一括民間委託。平成28(2016)年には、村制施行70周年を記念して村伝統芸能ハワイ公演を皮切りに国内外に本村の魅力を発信する宜野座ウィークなどの多彩なイベントを開催。道の駅「ぎのざ」が重点「道の駅」に選定される。同年12月に第21代村長に當眞淳氏が再選され、2期目の村政運営を担う。

平成29(2017)年には、村立共同調理場が完成、村民人口6千人突破、子どもの居場所運営支援事業の実施、体育施設ネーミングライツの導入。

平成30(2018)年には、村のブランド化を目指した「イチゴの里」宣言、防犯灯・防犯カメラの設置。県立農業大学が本村へ移転決定。リバーパーク整備事業の一環として観光拠点施設が完成し、道の駅「ぎのざ」をリニューアルオープン。

平成31/令和元(2019)年には宜野座多目的スポーツ施設の完成など地域のニーズに対応した施策を進めています。

平成7(1995)年以降のできごと

平成7(1995)年	
10月	村役場新庁舎竣工
11月	太平洋戦争終結50周年事業
平成8(1996)年	
1月	役場新庁舎落成式
4月	漢那小学校新校舎落成式
4月	村制施行50周年記念式典
10月	肥育牛センター落成式
12月	浦崎康克氏第16代村長就任
平成9(1997)年	
7月	全国ダムまつり『漢那ダムサマーフェスティバル'97』開催
7月	村野球場落成
11月	第10回全国スポーツレクリエーション祭ターゲットバードゴルフ大会開催
平成10(1998)年	
8月	株式会社未来ぎのざ創立
9月	村特産品加工直売センターオープン
平成11(1999)年	
10月	「てんぷす宜野座」宣言
11月	宜野座村人口5000人達成
平成12(2000)年	
2月	宜野座小学校落成式
7月	農業後継者育成センター開所
7月	村インターネット事業開始
7月21日	九州・沖縄サミット首脳会議(～23日)
10月9日	ジュリアーノ・アマート首相歓迎式典
12月5日	浦崎康克村長が無投票当選
平成13(2001)年	
3月	第73回全国高等学校選抜野球大会出場宜野座高校初戦突破～ベスト4入り(～4月3日)
7月	宜野座高校野球部全国高等学校野球選手権大会沖縄県大会初優勝
9月	イタリア共和国ペシャ市と宜野座村との姉妹市町締結
11月	第3回世界のギノザンチュの集い
平成14(2002)年	
3月	サーバーファーム開所式
平成15(2003)年	
1月	かんなタラソセンター竣工式
2月	阪神タイガースキャンプ
4月	宜野座村文化センター落成式及び祝賀会、宜野座漁港開港祝賀会
10月	城原区多目的ホール及び緑地公園落成記念式典

10月	第7回全国へそのまちサミットin宜野座
平成16(2004)年	
4月	宜野座村もずく加工施設落成式及び祝賀会
5月	宜野座区コミュニティー施設落成記念式典
6月	宜野座村堆肥センター落成式及び祝賀会
12月	東肇氏が第18代村長に就任
平成17(2005)年	
1月	記録作成等の措置を講ずべき無形文化財に「宜野座の八月あしび」が選択される
平成18(2006)年	
5月	第4回太平洋・島サミット(かんなタラソ沖縄)
6月	宜野座ドーム落成式
10月	第4回世界のギノザンチュの集い
10月	村制60周年記念式典
平成19(2007)年	
4月	モズク加工場落成式
6月	イタリアペシャ市長来訪
10月	宜野座村エコ野菜研究会が県特別栽培農作物認証
平成20(2008)年	
8月16日	県人移住100周年記念式典
12月30日	東肇氏 第19代村長就任
平成21(2009)年	
3月	第2サーバーファーム開所式
4月	村障害者福祉センター落成式及び祝賀会
7月	村営学習塾開設
7月	漢那ビーチ海水浴場オープニングセレモニー
9月	漢那多目的交流拠点施設落成記念式典及び祝賀会
平成22(2010)年	
3月	有機の里宜野座村宣言セレモニー
6月	九州高校総体カヌー競技大会(～20日)
8月	平成22年度全国高等学校総合体育大会第26回全国高等学校カヌー選手権大会(～7日)
8月	宜野座村漁村漁民活性化施設落成式
平成23(2011)年	
4月	宜野座村パインアップル加工施設落成祝賀会
6月	漢那漁港改修工事安全祈願祭
10月	第5回世界のギノザンチュの集い

平成24(2012)年	
1月	米海兵隊基地キャンプバトラー消防本部と金武地区消防本部との消防相互援助協約調印式
12月	村長選挙・村議会議員補欠選挙
12月	當眞淳氏 第20代村長就任
平成25(2013)年	
7月	マンゴー拠点産地認定
7月	松田地区史跡公園及び体験交流センターオープニングセレモニー
10月	かんなパークゴルフ場落成祝い
平成26(2014)年	
10月	道の駅「ぎのざ」登録証交付式
11月	宜野座区芸能団内子町芸能交流
平成28(2016)年	
3月	むらづくり村民会議(具申発表)
8月	第1回村子ども議会
10月	村制施行70周年記念式典・祝賀会
10月	世界のギノザンチュ若者シンポジウム
10月	第6回世界のギノザンチュの集い
11月	惣慶区芸能団内子町芸能交流
12月	當眞淳氏 第21代村長就任
平成29(2017)年	
2月	むらづくり村民会議(具申発表)
4月	村と名桜大学及び琉球大学による地域雇用創出・若者定着協定締結式
7月	全国へそのまち協議会子ども交流事業(～31日)
8月	村立共同調理場落成式および祝賀会
12月	村民6千人達成記念認定証交付式
12月	村野球場施設ネーミングライツ名称「かりゆしホテルズボールパーク宜野座」に決定(株式会社かりゆし命名権取得)
平成30(2018)年	
1月	イチゴの里宣言
4月	村観光拠点施設落成式・祝賀会
5月	第69回沖縄県植樹祭(開催地:宜野座村)
9月	村議会議員選挙
11月	松田区芸能団内子町芸能交流
平成31／令和元(2019)年	
1月	宜野座多目的スポーツ施設落成
令和2(2020)年	
9月	金地区清掃センター運用開始
12月	當眞淳氏 第22代村長就任

宜野座村のいま

①

②

③

④

豊かな自然に包まれた宜野座村

宜野座村は沖縄本島のほぼ中央部（てんぷす＝沖縄の言葉で“へそ”の意）の東海岸に位置し、農業を中心に発展を遂げてきた。村の北西部には緑豊かな山々が連なり、山並みから漢那福地川、慶武原川の河川が流れ、河口周辺には豊かなマングローブ群落が広がる。また、漢那ダムをはじめとした5つのダムがあり、水がめとして沖縄本島住民の暮らしを支えている。コバルトブルーの海、神秘的な鍾乳洞などの豊かな自然は観光資源にもなり、県内外の人々に親しまれている。さらに、毎年2月にはプロ野球キャンプでもにぎわう。

安心・安全なおいしさを届ける「有機の里」をめざして

宜野座村は平成22（2010）年に「有機の里宜野座村」を宣言。安心・安全で付加価値の高い農作物生産を推進し、ブランド化を図っている。平成30（2018）年には「イチゴの里」を宣言し、産地化のため担い手育成に力を注ぎ、宜野座産イチゴのブランド化も図っている。また、特産品加工直売センター「未来ぎのざ」は、地域特産物の開発加工を推進し、安くて安心な農産物が買える直売所として県内はもちろん観光客にも大人気。

東海岸の観光振興につながる宜野座村の観光

沖縄県の東海岸で唯一の道の駅「ぎのざ」や平成30（2018）年に完成した「宜野座村観光拠点施設」等、新名所がオープンし活気にあふれている。情報発信と休憩、地域連携の3つの機能を強化しつつ近隣市町村との協力も図りながら、東海岸の活性化に力を入れている。

①通年アクティビティが楽しめる松田鍾乳洞　②村指定文化財（史跡）の「松田の馬場及び松並木」（写真提供：宜野座村立博物館）　③安心・安全なベビーリーフは付加価値も高い　④宜野座村観光拠点施設

村の発展を支える未来志向の政策

宜野座村は、他市町村に先駆けて農業の基盤整備に取り組み、ほ場整備や灌漑排水の整備率が高い。村が運営する農業後継者等育成センターは、農業に従事する人材を育成する施設。修了生にはハウスなどの設備や資金面をバックアップする体制が整う。農業や漁業および加工業にも村として力を注ぐと共に、企業誘致にも尽力。宜野座村ITオペレーションパークはIT関連企業の誘致・育成と地域活性化、雇用の創出を目的に創設された、国内初の本格的公設データセンター。令和3（2021）年3月現在、9社と入居契約を締結しており、約300人の雇用が生まれている。また、次世代育成のため教育にも力を注ぎ、子育てしやすい環境を作り出すと同時に、文化の村という一面も。各地区で伝統芸能を大切に受け継ぐと同時に、宜野座村文化センターがらまんホールからは新しい文化を発信している。

④ＩＴオペレーションパークの全景　⑤農業後継者等育成センター
③ＩＴオペレーションパークの室内　④平成23（2011）年に村としてマンゴー拠点産地認定を受けた　⑤国の無形民俗文化財に指定されている「宜野座の八月あしび」の代表的な演目「宜野座の京太郎」
⑥宜野座村文化センターがらまんホールで開催された公演の様子

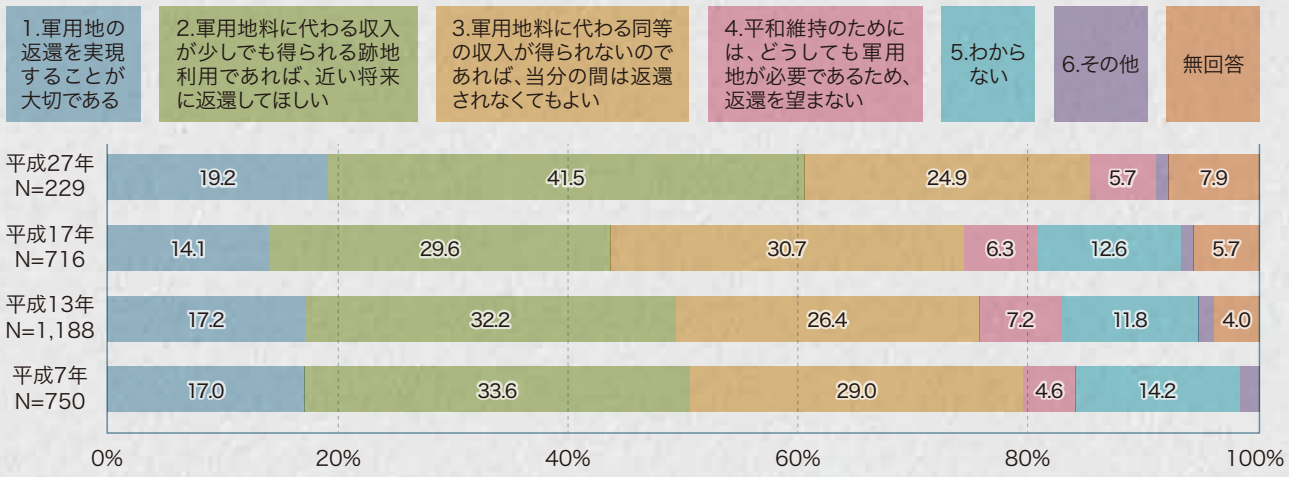
軍用地の返還に関する考え及び軍用地の跡地利用

村民アンケートは、平成27（2015）年10月～11月に村内在住の16歳以上の世帯員がいる全世帯（2027件）を対象に実施し、229件（回収率：11.3％）の回答が寄せられた。（資料：第5次総合計画《基本構想・前期基本計画》）

宜野座村土の約半数（50.7％）を占める軍用地の返還に関する考え方についての最新アンケート調査では、「軍用地料に代わる収入が少しでも得られる跡地利用であれば、近い将来に返還してほしい」（41.5％）が最も多い。過去の調査と比較しても、「軍用地料に代わる収入が少しでも得られる跡地利用であれば、近い将来に返還してほしい」が多く、「軍用地の返還を実現する事が大切である」も含めた「返還を望む」回答の割合が多くなっている。

軍用地返還に対する考え

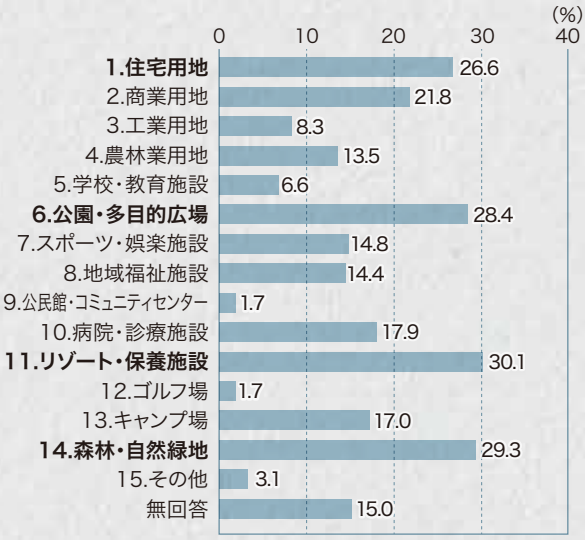
（宜野座村実施意識調査より）



軍用地返還後の望ましい利用方法

（宜野座村実施意識調査より）

	平成27(2015)年		平成17(2005)年		平成13(2001)年		平成7(1995)年	
1位	リゾート・保養施設	33.1%	森林・自然緑地	38.4%	森林・自然緑地	37.0%	住宅用地	42.4%
2位	森林・自然緑地	29.3%	住宅用地	33.1%	住宅用地	33.9%	森林・自然緑地	36.9%
3位	公園・多目的広場	28.4%	リゾート・保養施設	27.0%	リゾート・保養施設	27.3%	学校・教育施設	30.9%
4位	住宅用地	26.6%	農林業用地	22.6%	学校・教育施設	25.8%	公園・多目的広場	27.9%
5位	商業用地	21.8%	公園・多目的広場	22.2%	農林業用地	19.8%	スポーツ・娯楽施設	27.9%



軍用地返還後の跡地利用について過去の調査と比較すると、「森林・自然緑地」及び「住宅地」は各調査年ともに上位5位以内となっている。

軍用地の跡地利用の面積は1,586haと大規模であり、森林は水瓶や貴重なやんばるの自然資源の1つでもあることから、長期的で広域的な視点をもって、本村の持続的な自立経済や村民生活に与える影響等の多様な観点から、土地利用を検討することが重要である。

跡地利用計画

SACO最終報告では、土地の返還及び訓練の改善、騒音の軽減、日米地位協定の運用改善について記載されているが、嘉手納飛行場以南の米軍施設・区域の返還で合意される一方、普天間飛行場の辺野古移設や基地機能の北部集約等で北部地域への基地負担が増加することが懸念される。また、キャンプ・ハンセン、キャンプ・シュワブにおいても返還への見通しが立っていない。

本村は、平成４年に第１次、平成７年に第２次の跡地利用計画を策定しているが、現在の社会経済情勢等を踏まえて当該計画の再検討を行う必要がある。

漢那ダムの共同使用解除とキャンプ・シュワブ提供水域の一部返還

本村は、日米関係機関に対して、漢那ダムの共同使用解除とキャンプ・シュワブ提供水域の一部返還を求めている。いずれについても、観光振興を目的に要請を行っているが、実現の見通しは立っていない。引き続き日米関係機関に対して働きかけていく。

基地関連交付金を活用した主な事業

宜野座村内には、基地関連の各種交付金を活用してさまざまな事業を実施している。
交付金の詳細については第5章（Ｐ72～90）を参照。

１.再編交付金事業

宜野座村共同調理場建設事業

宜野座村人材育成事業（村営学習塾運営事業）

２.防衛施設周辺障害防止事業

宜野座村健康づくり助成事業（こども健診）

福山浄水場凝集沈殿池改修工事（その３）

高松進入路改良舗装工事

福山進入路整備工事

3.防衛施設周辺民生安定施設整備事業

福山区公園改修工事

4.特定防衛施設周辺整備調整交付金事業

宜野座村障害者福祉センター整備事業

5.特別行動委員会関係施設周辺整備助成事業（SACO交付金）

宜野座村多目的広場建設事業

6.沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業（沖縄懇談会事業）

かんなタラソセンター整備事業